

（21）

第三社会

（第3種郵便物認可）

八戸市中心街地区 バリアフリー推進協 公共施設や駅巡回

JR本八戸駅から八戸市中心街に至るエリアのバリアフリーの状況を確認したまち歩き点検30日、同市



利用者目線で改善点探る

八戸市中心街地区バリアフリー推進協議会は30日、JR本八戸駅から市中心街に至るエリアで「まち歩き点検」を実施した。学識経験者や福祉関係団体、公共交通事業者などから14人が参加し、公共施設や駅を巡回。地面に設置してある点字ブロックの間違いやスロープの不足など、利用者の目線で改善が必要な場所を確認した。

協議会は八戸市の主導で8月に発足。同エリアを対象に基本構想を策定し、本八戸駅へのエレベーター設置をはじめ、バリアフリー化を目指す。個々の施設ごとではなく、建築物や道路との連続性を確保した「面的・一体的なバリアフリー化」を重視する方針だ。

同日は参加者が二つのグループに分かれ、市庁を出発。それぞれ本八戸駅と中心街に向け施設や道路を1時間半ほど歩いて回った。

市庁周辺では点字ブロックが警告（点状）ブロックばかりで、誘導（線状）ブロックがない場所や、点字ブロックが老朽化で破損していた場所が見つかった。

公共施設の入り口やトイレに誘導の音声がないことや、本八戸駅のタクシープールでは段差が大きい上にスロープがないことなども改善点として指摘された。

次回は11月に会合を開き、基本構想の方針を話し合う予定。市都市整備部の田邊肇次長は「今回の意見を基本構想に反映し、施設や道路の管理者とも協議していきたい」と述べた。（上條哲洋）